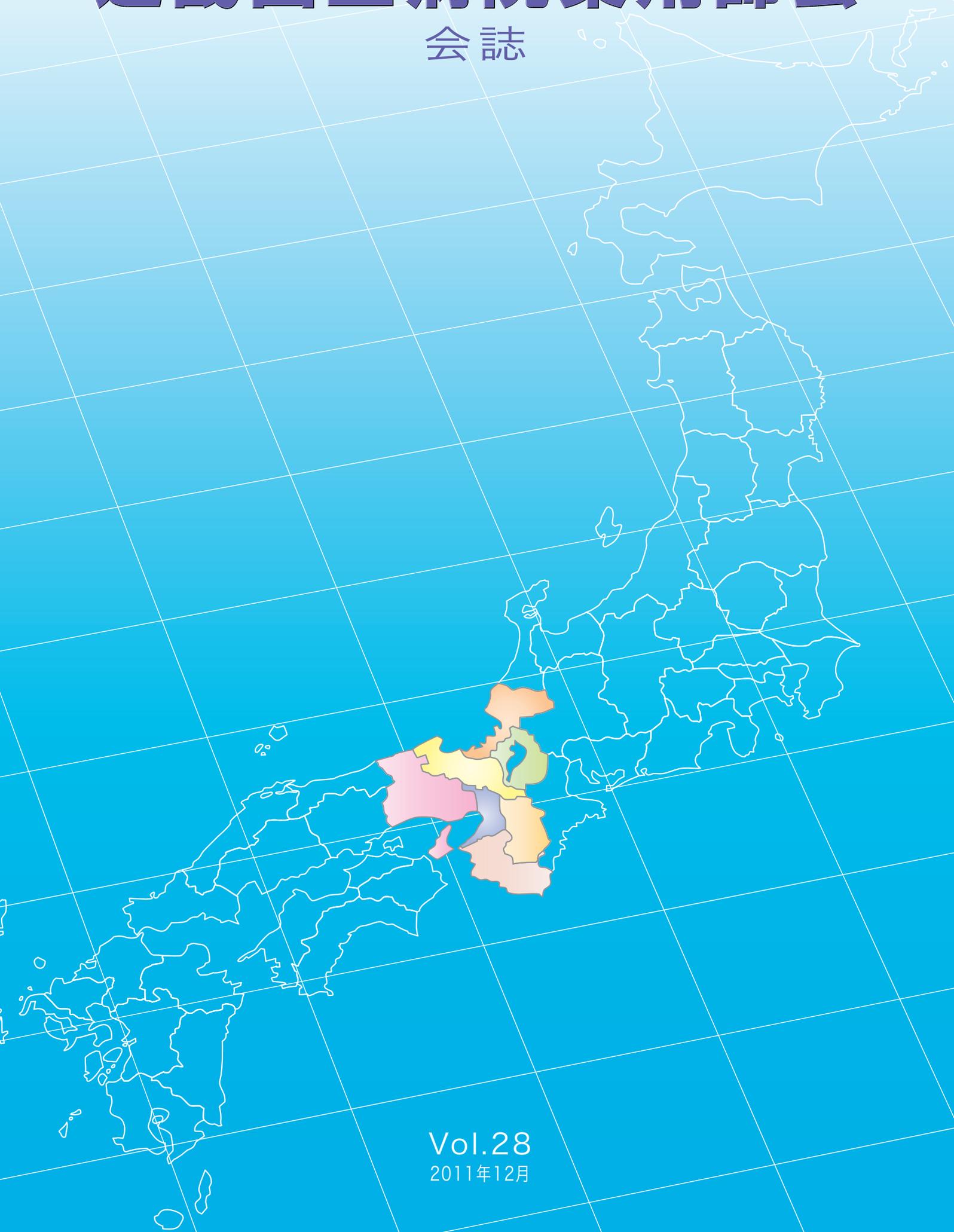


# 近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.28  
2011年12月

# 目 次

提言「“Stay hungry, Stay foolish”（食欲であれ、愚直であれ。）」.....	2
南和歌山医療センター	岡田 博
薬剤科紹介.....	4
和歌山病院	南山 啓吾
学会報告	
第 11 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2011 (in 岡山) に参加して.....	7
南京都病院	玉田 太志
学会報告	
第 65 回国立病院総合医学会に参加して.....	9
大阪医療センター	奥田 直之
業務検討委員会主催講演会報告.....	10
大阪南医療センター	山口 崇臣
病院薬剤師になって.....	11
大阪医療センター	藤尾 弥希
大阪南医療センター	高口 仁宏
地区会報告.....	13
編集後記.....	14

「提言」  
“Stay hungry, Stay foolish”  
(食欲であれ、愚直であれ。)

南和歌山医療センター 岡田 博

この原稿の依頼があったころ頃、アップルの共同創業者スティーブ・ジョブズが10月5日死去したとのニュースが世界中を駆け巡りました。56歳だったということです。

スティーブ・ジョブズについては、皆さんよく御存じだと思います。「iPod」や「iPhone (アイフォーン)」などをヒットさせたカリスマ経営者です。このニュースの中で世界中の人々に感動を与えたスピーチの紹介があり、興味もあってインターネットで探し読んでみました。それは、2005年10月スタンフォード大学卒業式でのスピーチで、当時彼はすい臓がんの宣告を受け1年前に手術を受けていました。

もともとプレゼンテーションには定評のある彼らしい、シンプルを身上とするスピーチで彼の人生の軌跡を踏まえた3つのテーマから構成されています。

- ・ 大学を退学後、ただ面白いということだけでカリグラフィの授業を受け（退学にもかかわらず聴講はできた）、10年後のマッキントッシュ・コンピュータのフォントに応用できたことを振り返り、将来役に立つかどうかかわからないことでも、決めたことは続けることの大切さを伝えています。
- ・ 創業したアップルを30歳になったとき追放され、仕事をやめようとしたが棄てきれずやり直したこと（この時、「トイ・ストーリー」を作成したピクサーを設立した）。自分が好きな仕事であれば信じて続けることの大切さを伝えています。
- ・ がんを宣告されショックをうけ「死」について深く考えた時、結論として「自分自身の心と直感に従い、勇気をもって行動すべし」との考えに至ったことを述べています。

最後に、卒業生たちに常に何かに挑戦する気持ち、自信をもって行動する大切さを訴え”Stay hungry, Stay foolish”という言葉を送っています。

その後、ベストセラーとなった彼の2冊の本を読みその波乱万丈の人生を垣間見ました。そして、スピーチをした当時50歳の彼と今の私を比較してみました。

日々の生活をただ惰性に身を任せて過ごしていないだろうか。

何事にも興味を持ち積極的に行動しなくなっていないだろうか。

少しでも医療に貢献したい、そして、患者さんのために尽くしたい思い薬剤師という職を選んだ自分に、今もその気持ちに変わらないだろうか。

中途半端に物事を終わらせてはいないだろうか、何か新しいものに挑戦してみようという気概は持っているだろうか。

あらためて彼の偉大さを感じると同時に、“Stay hungry, Stay foolish”という言葉を知り、そして自分自身に問いかける私でした。

“Stay hungry, Stay foolish”

“Stay hungry, Stay foolish”

“Stay hungry, Stay foolish”

#### 参考

スティーブ・ジョブズのスピーチが字幕動画で見られます。

<http://sago.livedoor.biz/archives/50251034.html>

# 薬剂科紹介



National Hospital Organization  
Wakayama National Hospital

独立行政法人国立病院機構  
和歌山病院

## 【和歌山病院の理念】

職員一同は、患者さまの権利と立場を尊重し地域と密着した「安心と信頼を頂ける病院」を目指します。

## 【環境】

和歌山病院は和歌山県の紀伊半島のほぼ中央に位置し、気候は温暖であり、徳川頼宣公が保護した全長 6km 幅 500m の煙樹ヶ浜大松原の中央に所在している。近くには夕映えが美しい日の岬、安珍清姫物語で有名な道成寺があり自然に恵まれた環境である。また、当院の所在する御坊医療圏は、北は有田医療圏、南は田辺医療圏に隣接し、1市5町村で構成され、人口は6万7千人の地域です。

## 【沿革】

昭和 19 年に日本医療団延寿浜園として創設され、現在に至る。当院は政策医療として循環器、呼吸器(結核含む)、重心の3疾患に関し、専門的な医療、臨床研究、教育研修及び情報発信の機能を整えた施設として活動している。また、神経内科は和歌山県神経難病医療ネットワークにおいて拠点病院に位置付けられている。そして、平成 18 年 6 月より地域医療支援病院を取得、地域医療に貢献している。

## 【薬剂科紹介】

薬剂科スタッフは薬剂科長、調剤主任、常勤薬剂師 3 名（10 月より実質増員）と非常勤薬剂助手の 6 名で構成している。



#### ○調剤業務

10月下旬よりオーダーリングシステムが更新され、薬袋発行機、全自動錠剤分包機、散薬分包機、散薬監査システム、水薬監査システムも新しくなり、調剤業務の効率化が期待できる。重病棟においては以前より錠剤及び散剤の縦割り一包化調剤を実施しており、さらなる医療安全の継続に貢献している。注射薬の払い出しは従来の処方毎払い出しから1日分払い出しに変更し、薬剤科の業務量が増えたが、病棟での看護師による薬剤整理にかかる時間は短縮され注射薬関連のインシデント減少に寄与している。また、簡易懸濁システムを導入し、懸濁方法別の調剤が可能となった。

#### ○がん化学療法

平成21年度より、薬剤科が事務局となり、がん化学療法委員会を立ち上げ、委員会としてレジメン管理することにより、外来化学療法加算1の算定が可能となった。現在、肺がん、乳がんのレジメンを中心に31種37件のレジメンが登録されている。平成22年12月には薬剤科内に安全キャビネットが設置され、平成23年1月より外来化学療法、4月より入院化学療法における抗がん剤無菌調製を開始した。それによりチーム医療の推進、職場環境の改善、レジメンチェックによる医療安全や医師の業務軽減にも貢献している。

#### ○薬剤管理指導業務

当院の特色である循環器科、呼吸器内科（結核含む）をはじめ、外科、神経内科病棟において、薬剤管理指導を実施している。薬剤管理、持参薬管理、服薬指導を中心に薬剤管理指導業務を行っている。

#### ○チーム医療の推進

NST、褥瘡、摂食嚥下、ICT、PCTの各チームにおいて薬剤師が積極的にチーム医療に参画している。NST 専門療法士を配置し、来年度に緩和薬物療法認定薬剤師を目指すなど、それぞれのチーム医療で中心的な役割を果たしており欠かせない存在となっている。

#### ○後発医薬品の採用促進

国立病院機構第二期中期計画の数値目標を達成するため、平成23年度薬事委員会目標として、後発医薬品の採用促進を実施している。品目ベース：20%以上の維持、金額ベース：15%以上の維持、数量ベース：30%以上の達成を目標としており、今年度中には数量ベースも達成予定である。

#### ○地域連携及び教育研修

近隣3病院と日高地区薬剤師会との合同勉強会（毎月開催、今年11月で183回）及び、日高・有田地区病院薬剤師研修会（隔月開催、今年11月で38回）の幹事施設として積極的に参加し、地域連携及び教育研修にも力を注いでいる。また、各薬剤師が毎年1題以上の学会発表を目標とし、各種専門学会に参加している。

以上のような業務を行い、患者さまの権利と立場を尊重し地域と密着した安心と信頼を頂ける薬剤師を目指して日々努力をしている。



(文責 南山 啓吾)

## 学会報告

### 「第 11 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2011 in 岡山」に参加して

南京都病院 玉田 太志

2011 年 9 月 24 日と 25 日に開催された「第 11 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2011 in 岡山」に参加しましたので報告いたします。

当院治験管理室からは、岸本 CRC が「研究者主導型臨床試験における CRC の業務支援と今後の課題－業務支援体制の異なる臨床研究データ集積率の比較－」と言う演題でポスター発表を行ないました。

早いもので 2001 年に始まったこの会議（通称：あり方会議）も 11 回目を迎え、職種を超えて臨床試験に携わる人たちが活発な意見交換ができる場として定着しており、毎年 3,000 名近くの参加者がいることも関心の高さを物語っております。



岡山と言えば桃太郎(JR 岡山駅前)

さて、今年のメインテーマは「新たな 10 年の始まり－プロフェッショナルとしての臨床試験の橋渡しを－」でした。この 10 年間わが国における治験の実施体制は整備されたものの、現状では国際競争の中で厳しい状況にある。こうした状況の中で、今後さらに、CRC は臨床試験、臨床研究の支援業務、並びにスタディマネジメントの分野でプロフェッショナルとして架け橋になっていくことが求められ、新たな 10 年の始まりと

なることから今回の会議のテーマとなりました。

さらに今回の会議は 3 月 11 日に発生した東日本大震災後、初めてのあり方会議となったことから、例年とは異なる講演、シンポジウム、ポスター発表に期待するところの多いあり方会議となりました。

シンポジウム、ポスター発表ではやはりここ数年増加している「国際共同治験」を扱ったものが目につきました。「国際共同治験」が増加すれば当然 FDA 等からの監査も増加します。監査に対応できる施設であることが、治験実施と共に重要な選定条件となってくると考えられます。当院も昨



会場:岡山コンベンションセンター



会場からほど近い所にある岡山城

年、海外からの監査を受け入れ、貴重な経験を積むことができました。もう一つ目を引いたのは、臨床試験業務での IT 化関連の発表が多かったことです。臨床試験において、EDC はすでに一般化しており、現場での抵抗感はほとんど無くなっていると思われます。今後ますます、臨床試験効率化の為に IT 化システムの導入が増えてくると考えられます。タブレット型端末を用いたペーパーレス会議を行なっている施設の発表は、特に印象に残りました。

東日本大震災関連の発表については、やはり今回のもう一つのメインテーマとして扱われておりました。今まで災害と治験が扱われた事は無かったと思います。参加者の関心は高かったものと思われます。

災害時における治験のリスク管理についてアンケートが実施され、その結果が公表されておりました。その結果によると、災害時における対応マニュアルが完備されていない施設がほとんどでした。特に、被験者の安否確認などの問題は早急に各施設で対策を講じなければいけない問題であると思われます。震災の影響なのか、今年は例年に比べポスター発表数が少なかった感がありました。

来年は「日本のプレゼンス向上を目指してー臨床研究に関わるすべてのメンバーの絆でー」をメインテーマとして、9月1日（土）、2日（日）大宮ソニックシティで開催されます。関係者の皆様、大宮で再会いたしましょう。



来年のポスター

## 学会報告

### 第 65 回国立病院総合医学会に参加して

大阪医療センター 奥田 直之

平成 23 年 10 月 7 日(金)～8 日(土)に岡山県の岡山コンベンションセンター・ホテルグランヴィア岡山・岡山市デジタルミュージアム・岡山全日空ホテルの 4 会場で第 65 回国立病院総合医学会が開催されました。この学会は国立病院機構主催であり、年 1 回この時期に開催されます。今回、私は参加およびポスター発表する機会があったため報告させていただきます。

当日は朝から快晴であり、朝早くから出発した私はちょっとした旅行気分でした。私は今まで近畿学術大会以外に出た事がなかったので、会場の規模に驚きました。しかし 4 つの会場はすべて JR 岡山駅に隣接しており、各会場間は連絡通路で結ばれており移動は特に支障ありませんでした。発表は医師や看護師、メディカルなどさまざまな職種がテーマを持ちよっているため、薬剤師としての視点以外で研究テーマやその考察がなされており、なかなか興味深いものがありました。また、近畿以外の病院をほとんど知らない私にとって、この学会は全国の病院から集まってくるため、各施設やその活動を知る良い機会にもなりました。私は発表時間の制約より聴講できませんでしたが今回、東日本大震災および原発事故があったということで災害支援活動などを取り扱ったシンポジウムが開催されていました。

今まで何回か学会に行きましたが、行くといろんな情報が入ってきて「うち(自分の病院)のここの部分は直したほうがいいな」とか「ああ、そういう事やってるんや、うちでもできないかな」と思う事がたくさん出てきます。そういった意味でも「参加する」だけでも意義があるのかなと思います。これからも広い知識やネタを求めて学会に参加していきたいと思います。



ポスター会場の様子



眼科のテーマで発表させていただきました

## 業務検討委員会主催講演会報告

大阪南医療センター 山口 崇臣

日 時：平成 23 年 10 月 29 日（土）14：30～17：00

場 所：KKR ホテル大阪 星華の間

参加人数：127 名（会員 102 名、非会員 25 名）

### 会員講演

演題 「各施設における緩和医療への取り組み」

演者 近畿中央胸部疾患センター 宮部 貴識先生

刀根山病院 梨 あゆみ先生

座長 大阪南医療センター 石塚 正行先生



### 特別講演

演題 「後発医薬推進に薬剤師の果たす役割」

演者 労働者健康福祉機構 大阪労災病院 薬剤部長 前田 頼伸先生

座長 姫路医療センター 小林 勝昭先生

業務検討委員会主催で会員講演と特別講演の 2 部構成で開催された。

まず、会員講演では「各施設における緩和医療への取り組み」のテーマで、宮部先生から多職種での緩和医療への取り組みと科研費獲得への活動について発表があり、又、梨先生からはケタミンとオピオイドの使用に関する解析データの発表がなされ、その後活発な質疑応答となった。

さらに特別講演では、前田先生がご所属されている大阪労災病院での後発医薬品の取り



組みについてご講演をいただいた。初めに後発医薬品に関する国際比較、国内での状況等をご説明いただき、そしていかに自施設内で後発医薬品の導入に対応していかれたか、品目別、診療科別にご説明いただいた。その中で、自ら研究して得られた結果に基づいた後発医薬品の導入の対応、金額面での分析のみならず、副作用や医療事故防止の側面からの検証も行われ、後発医薬品導入を円滑に行うべく活動されておられていることを強く感じるものがあった。

今回の前田先生のご講演は、いかに薬剤師が後発医薬品の円滑導入に重要なポジションを占めているかを痛感し、また今後の活動を示唆される内容であった。

## 病院薬剤師になって

大阪医療センター 藤尾 弥希

私が病院薬剤師として大阪医療センターにて勤務し始め、早くも半年以上が経ちました。テレビで見る東日本大震災に関するニュースも、月日が経つにつれて被災された方々の日々の生活を取り戻すこれから<sup>きま</sup>未来の話に移り変わってきたように思います。2011年3月11日、私は卒業旅行先のドイツで東日本大震災のニュースを知りました。現地では得られる情報があまりにも少なく、不安や焦燥感を抱いたことを覚えています。震災の影響で3月末の薬学会も中止になり、ぽっかりと空いた予定の先に入職式がありました。

病院薬剤師としてのスタートを切り、右も左も分からないところから少し職場の雰囲気には慣れてきましたが、学校で得た机上の知識だけではなく、学校では習わないことが大半で、「習うより慣れろ」とはまさに普通の業務のことだと思う日々です。臨床現場だからこそ得られる患者情報、院内採用薬剤の用法用量、管理方法、そして新たな知識等を、先輩方に指導していただきながら、中央業務（調剤業務、病棟混注業務、抗がん剤調製業務、製剤業務、薬品管理業務、治験調剤業務等）を行っています。

現在の病院薬剤師には、医薬分業が進むことで薬剤科の中の業務だけではなく、病棟の入院患者さんのベッドサイドで服薬指導を行い、適した薬の種類、量などの薬物治療の方針を医師と検討するなど、チーム医療の一員としての役割が求められるようになりました。それに伴い、患者さんの考え方や気持ちを理解して、こちらの意図を上手に伝えるためのコミュニケーション能力および他の医療スタッフとのコミュニケーション能力も求められています。年明けからは私も病棟に赴いての薬剤管理指導業務が始まります。今はその準備期間として薬剤科内の中央業務の習得と知識の集約に努めています。

近年では、医師が診療科別に分かれ各分野での専門医制度があるように、薬剤師においても特定領域において質の高い薬物治療を提供できるよう専門薬剤師（スペシャリスト）を育成する動きが活発になり、がん、感染制御、救急、抗HIV、糖尿病、栄養、緩和ケア、精神科、妊婦・授乳婦、漢方などの領域で各制度が設けられています。当院でも専門薬剤師や認定薬剤師として、チーム医療の一員となり活躍されている先輩方がたくさんおられ、憧れます。今はこの恵まれた環境で、将来、幅広い薬の知識をもって患者さんに寄り添えられるような病院薬剤師に、有事の際は地域の方の力となれるような薬剤師になれるよう、しっかりとした基礎の土台づくりを行っていきたいと考えています。

## 病院薬剤師になって

大阪南医療センター 高口 仁宏

大阪南医療センターに薬剤師として採用されてから早や八ヶ月が経ちました。バタバタしながら、なんとか仕事をこなしている状態です。現在の仕事内容は、調剤、TPN・抗がん剤の無菌調製、発注業務、薬剤管理指導をしています。薬剤師の業務は、経験と幅広い知識が必要であり、日々失敗を繰り返しながら「どうすればうまくいくか」を考えています。

私は、血液内科での薬剤管理指導を担当しています。血液内科では、白血病などの血液がんを中心に診療をおこなっています。そのため、ほとんどの患者さんが、抗がん剤による治療を受けます。患者さんに安心して治療を受けて頂くよう、抗がん剤治療のスケジュールや副作用、副作用の予防に使用する薬剤などについて説明しています。

患者さんから「最初に感じていた不安はなんやったんやろ。今は安心して治療に専念できます。有り難うございました。」と言われた時は、服薬指導をしていてよかったと感じました。少しでも多くの患者さんから「ありがとう！！」と言われるよう、日々頑張っていきたいと思います。

11月に初めて病院実務実習生を受け持つことになりました。血液内科に興味を持っていたらしく、学生さんの積極性や探究心を感じることができ、自分にとって大きな刺激になるとともに、まだまだ勉強不足だと痛感しました。実習生のような謙虚さと向上心を忘れないよう、心がけたいと思います。

以前、先輩の薬剤師に、「専門薬剤師になってから、専門性を生かすために何をすべきかすごく悩んだ。あなたもどんな薬剤師になりたいのか？薬剤師はなにをすべきか？なにができるのか？考え悩みなさい。」という話を聞きました。確かに、今はルーチンワークをこなすだけでヒューヒュー言っているような状態です。当然このような状態ですから、その答えは未だに出ていませんし、すぐに出るものでもないと思います。ただ、自己研鑽することでその答えが自然と見えてくるような気がします。自己研鑽することが一番の近道だと思います。薬剤師になった以上、生涯勉強です。

まだまだ未熟ではありますが、早く一人前の病院薬剤師になれるよう、さらに自分なりの薬剤師像を見いだせるよう、日々努力していきたいと思います。

## 地区会報告

### 大阪北部・兵庫東部地区会報告

日 時 : 平成 23 年 11 月 25 日(金) 19 : 00~21 : 30

開催場所 : 川西能勢口

参加人数 : 会員数 48 名中 12 名参加  
(国立循環器病研究センター : 6 名、刀根山病院 3 名、兵庫中央病院 3 名)

内 容 :

1. 新地区理事、副理事の選出
2. 各施設からの現状報告
3. 親睦会

## 編集後記

- ♪ 今年も残すところあと僅かとなりました。皆さまにとっての今年はどのような一年となりましたでしょうか。うさぎ年であった今年は皆さまにとって、うさぎの如く飛び跳ねる“飛躍”の年になられたでしょうか。
- ♪ 今年の本国における重大ニュースとしては3月11日に発生した東日本大震災ではないでしょうか。国内観測史上最大のM9.0という未曾有の大地震に加え予想もしなかった大津波と福島原子力発電所事故により激甚災害に至りました。一日も早い復興されますことを願うしだいです。
- ♪ 今年の漢字は「絆」が選ばれました。2位「災」、3位「震」。東日本大震災や台風被害で家族や友人など人との大切さを感じ支援の輪も広がったことや、なでしこジャパンのチームワークなどが理由に挙げられたようです。
- ♪ 来年は辰年です。十二支で唯一の想像上の動物でわからないことも多いですね。竜は四神のひとつで竜巻となって昇天し飛翔するといわれています。来年も皆さまにとって飛翔、飛躍の年になりますことをお祈り申し上げます。
- ♪ 今年最後の会誌です。今月号では科長提言、薬剤科紹介、学会報告、業務検討委員会主催講演会報告、2名の今年度新採用薬剤師の先生方の病院薬剤師になっての想いなど、いつものように充実した読みごたえのある内容となっています。今月もぜひ最後までご熟読ください。
- ♪ 今年一年間ありがとうございました。来年より発行月が1月、5月、8月、11月へ変更となります。来年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

(T. M)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>

近畿国立病院薬剤師会会誌	第二十八号	平成23年12月発行
発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局	大阪市中央区法円坂2-1-14	
(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター薬剤科内)		
発行人 会長 小森 勝也 (大阪医療)		
編集 広報担当理事	廣畑 和弘 (刀根山)	
広報委員	石塚 正行 (大阪南医療)	玉田 太志 (南京都病院)
	本田 富得 (神戸医療)	朴井 三矢 (京都医療)
	中西 彩子 (大阪南医療)	東 さやか (大阪医療)
	奥田 直之 (大阪医療)	宮部 貴識 (近畿中央)